

平成27年度 教育総務部 方針書

教育総務部長 柴田恒宏

1. 部の使命（役割）

教育施設の充実と地域文化・読書文化の振興

2. 平成27年度における課題（前年度の振り返りから）

- ・ 横手北小学校の校舎建設と既存老朽校舎の適正改修計画の策定
- ・ 歴史文化資源活用による未来につながる地域づくりの実践
- ・ 幼児期から生涯にわたる読書活動の支援

3. 平成27年度の『スローガン』

郷土を支える人を育てよう

4. 年度目標となる方針（目標）

- ・ 学校統合による学校建設及び教育施設老朽化対策
- ・ 横手市の歴史と文化を全国に発信
- ・ 読書文化の振興

5. 重点取組項目

(1)	項目	十文字地区統合小学校事業の推進と北小学校校舎建設
	取組内容	<ul style="list-style-type: none">・ 十文字地区統合小学校の敷地選定・ 横手北小学校の統合校舎建設事業の推進・ 金沢・黒川・境町小学校の統合準備事業、閉校記念事業実施
(2)	項目	横手の歴史と地域文化発信
	取組内容	<ul style="list-style-type: none">・ 後三年合戦関連事業の広域的連携・ 横手市文化財の保存継承のための計画策定・ 横手を学ぶ郷土学を小中学校で実施するための指導計画策定
(3)	項目	生涯にわたる読書活動の支援
	取組内容	<ul style="list-style-type: none">・ 子ども読書活動推進計画の実践・ 市民の学びと研究の場として、本と資料の収集と提供・ 学校図書館の運営支援

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況 【現状】

- (1) 十文字地区統合小学校建設地選定について、用地取得には土地収用法の事業認定を受けて事業を進めることとし、統合検討委員会から示された3候補地の中から12月をめぐりに決定をする。横手北小学校の統合準備では、校歌の作詞・作曲者を決定し、11月をめぐりに統合準備委員会を開催する。校舎建築は、スケジュール通り順調に事業実施されている。金沢・黒川・境町小学校の閉校記念式典を12月に実施することとし、実行委員会で準備。
- (2) 7月 後三年合戦 沼の柵公開講座開催。市内文化財の調査を進めるとともに、後三年合戦子ども歌舞伎などを通じて横手の郷土学の指導計画を策定してゆく。
- (3) むのたけじ講演会を実施予定。資料デジタル化などを通して、図書館としての書籍及び資料の収集と情報の提供を進めていく。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

- (1) 十文字統合小学校建設予定地の決定
- (2) 後三年合戦公開講座開催及び金沢城址安本館の調査結果の報告書作成による国指定史跡に向けた取組と横手の郷土学テキストの検討。
- (3) 図書館での子ども読書コーナーの充実と学校図書館との連携強化で、子ども読書活動の推進。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

1. 十文字地区4小学校の統合事業

十文字地区小学校統合事業に関しては、平成33年までに4小委学校を統合することについては、地域住民・小学校保育園等の保護者の考えは一致している。統合小学校を建設する場合は、3,500㎡の敷地が必要で、敷地を農地に求めることになり、土地収用法の事業適用により、農振除外に関係なく事業を進めることとした。

各地区で、検討委員会からの意見書にある候補地から十文字中学校周辺を候補地としたが、十文字西部の一部関係者や議会から他の候補地の検討案も出され、委員会の最終決定、当初予算計上が平成28年1月となったが、統合小学校の設計委託費や用地測量委託費などが認められ、平成28年度からの事業着手となる。

今後は、地元住民や保護者等への説明を丁寧を実施し、事業を進めていくことになる。

2. 後三年合戦関連事業

後三年合戦関連公開講座は年間3回実施した。講座開催のテーマに工夫を凝らし、史跡と観光を結び付けるテーマなどで実施し、すべての公開講座に1日200人から300人ほどの参加者あり、大変盛会であった。今後ともテーマに工夫を凝らし、専門的な考察と、一般の市民にもわかりやすい公開講座の開催にしてゆく。

金沢柵の発掘調査では、安本館での多くの柱跡が見つかった。平成28年度は陣館遺跡の総括報告書提出による国指定史跡を目指して取り組んでいく必要がある。同時に、後三年合戦関連のビジターセンターの早期設置について事業化に取り組む必要がある。

3. 子供の読書活動の推進

図書館と学校図書館の連携では、司書同士の勉強会を開催し、学校図書館の整理・展示・資料補修などを情報交換した。また各学校への団体貸し出しを実施し、朝読み用の図書50冊などを図書館から貸し出している。

昭和の貴重な資料としてのむのたけじ氏の「たいまつ」をデジタル化し、創刊から廃刊まで全号をそろえ、一般市民に28年4月から閲覧できるようにした。また、みのたけじ氏の講演会も開催でき300人を超える市民が参加した。今後も貴重な資料の保存にも力を入れる必要がある。